



関中央ロータリークラブ

2017-2018 WEEKLY REPORT

例会日 毎週木曜日 18時30分

例会場 関観光ホテル（関市池尻91-2）

事務局 関市西本郷通5-2-53 TEL(0575)24-7332 FAX(0575)23-5278

会長 波多野 好文 **副会長** 佐藤 忍 **幹事** 長谷川 修 **クラブ会報委員長** 大藪 太

2017～2018年度国際ロータリー

イアン H.S. ライズリー会長



2017～2018年度関中央ロータリークラブ会長テーマ

「親睦からのロータリー」

本日のプログラム 第1927回例会 2018年1月25日（木）

「岐阜県博物館見学会」 / 担当 職業奉仕委員会

前例会の記録

第1926回 2018年1月18日（木）

卓話 関伝日本刀鍛錬技術保存会

刀匠会 会長 尾川 兼國 様

テーマ 「刀鍛冶」 / 担当 職業分類委員会

*ロータリーソング「我等の生業」 斉唱

*お客様の紹介

関伝日本刀鍛錬技術保存会

刀匠会 会長 尾川 兼國様

*会長あいさつ 波多野好文会長

皆さん今晚は、先週の新年互礼会の時に話した通り、今週は2つの会の新年の名刺交換会へ行ってきました。まず、12日の金曜日には雪の中、関商工会議所青年部の名刺交換会へ行ってきました。会場は美濃観光ホテルで、時間は遅く19時40分からでした。その前に新役員の発表とかあったのですが、それには参加せずに、いきなり飲み会のみに参加してきました。これは、来賓として呼ばれたのではなく、OB会員として行ってきました。卒業して10年がたちますが、初めての参加でした。



OB会員として来ていたのはやはり卒業して2～3年の人ばかりで、古い卒業生は美濃ロータリーの土本さんぐらいで、名刺を30枚くらい持って行ったのですが、すべて交換して関中央ロータリークラブをアピールしてきましたが、ロータリーに興味を持っている方は誰もいなかったように思われました。また、アトラクションとして、AKBばりの白いドレスを着た女性2人のグループ歌手の歌謡ショーがあり、ペンライトを渡され、大音量で歌い久しぶりに演歌以外の若い雰囲気に触れてきました。開始時間が遅かったためか、市長さんや県議の方、商工会議所の会頭も来ていたのですが、自然解散となったのが残念でした。新年度は4月からで、新会長は塚田浩生さんで、テーマは「勇躍せよ！ 血湧き肉躍る YEG」で来年度40周年だそうです。会員数は現在165名だそうです。

また、15日の月曜日には、ラ・マーレで青年会議所（JC）の新年名刺交換が行われたので来賓として、赤いリボンをつけてクラブより会費を頂いて参加してきました。これは18時より行われ、新役員の紹介があり、そのあと新理事長が所信表明をのべる

のですが、これがおよそ 10 分間原稿を読まず、暗記して発表します。これはすごい集中力と暗記力が必要で感服しました。また、びっくりしたのは席が有るのは、来賓とOBのみで、現会員は席がなく立ったまま挨拶を聞いていました。もちろん料理はなく料理を運ぶ役をしていました。聞いたら毎年そうだそうです。それと残念でしたのが、宴会の時間が短かったことです。1時間はなかったようです。名刺を20枚ぐらいもっていったのですが、2,3枚渡したところで、終わってしまいました。新年度は1月からで、新理事長は刀匠の加藤正文実さんで、スローガンは「鍛錬 ～自らを鍛え、まちの未来を切り開く～」だそうです。現在会員数は40数名で今年61年目です。以上2つの新年名刺交換会へ行った報告で今日の挨拶とします。

*卓 話

関伝日本刀鍛錬技術保存会

刀匠会 会長 尾川 兼國様

テーマ 「刀鍛冶」



私がこの世界に入ったのは、30歳を過ぎてからでした。それまで神奈川県でガラス・アルミサッシの施工の仕事についていました。25歳の時、父に刀鍛冶がしたいと言いましたが、今の生活の方が良いと断られました。33歳の時、岐阜に帰り同じ仕事を探しましたが、希望する会社がなく、失業保険をもらっていました。ある日、父が時間があるなら炭でも切ってくれと言いました。私も軽い気持ちで炭を切り始めました。その仕事は何だか心地良くこういった世界も良いなと思うようになりました。刀の修業は、10代、20代の方が入る世界です。30歳を過ぎた自分に出来るか不安でしたが、父がコツコツ真面目にやれば大丈夫と言ってくれました。鍛冶屋の仕事はきついとは思いませんが父は昔の職人です。月の休みが無いのです。私は会社勤めでしたから、休みが無いのはきつかったです。子供も小さかったので寂しい思いをさせました。10代、20代と違い30歳を過ぎると言われた事は頭では理解するのですが、体・手がついてきません。よく怒られました。職人は見て覚えるといいますが、父は本当に手取り、足取りと丁寧に教えてくれました。他の師匠なら、30

歳を過ぎた者など弟子にはとらないと思います。父には感謝しております。

○日本刀が戦後残った理由

幕末から明治にかわり、武器としての役割を果たしてきた日本刀が一応の終わりを告げる。

法的には、明治3年12月廢刀令(廢刀許可令)、明治9年3月廢刀令(帶刀禁止令)。再び、戦争で製作されるが、敗戦で出来なくなる。昭和21年 鉄砲等所持禁止令でGHQが大規模な刀狩を実施する。その時に日本美術刀剣保存協会 初代会長 本間順治氏が日本刀は昔から美術品として扱われてきた。だから美術的価値の有る日本刀は没収から外してほしいとGHQに交渉して現在に至る。

○戦後日本刀製作のはじまり

昭和26年 サンフランシスコ講和条約を記念して、刀剣界の実力者であった栗原彦三郎氏が記念刀の製作を提案し、全国の刀匠が製作するが、途中で栗原氏が死亡され話が中止となる。昭和28年に美術刀剣としての製作が再開されます。その時に講和記念に関わった人達が刀匠として認可される。春日神社に関の刀匠が製作した刀が奉納されています。

○刀が発見されるケース

- ①建物を壊した時に屋根裏などから出る。
- ②引越しなどで物置を整理していたら他の骨董品に混じって出てきた。
- ③祖父の遺品を整理していたら押入れから。
- ④前から刀の有ることは聞いていたが、改めて調べたら登録証が付いていない。

警察署に発見届→県教育委員会→登録

刀剣・古式銃 都道府県教育委員会

猟銃 都道府県公安委員会

事件が起きると「銃刀法違反」が報道されます。法律では「銃砲・刀剣類所持等取締法」。銃砲刀剣類の一括した名称で取り扱われる為、文化財である刀剣が誤解を招く。

刀剣類とは

刃渡り 15cm以上の刀、ヤリ、なぎなた

刃渡り 5.5cm以上の剣

あいくち、飛出しナイフ 5.5cm

包丁、なた、のみ、カッターナイフなど正当な

理由がないと持てない

- ・登録証が交付されていない刀の例
無鍛錬の刀（昭和刀）、仕込み杖、日本刀としての
製作工程を経っていないもの（外国製刀剣類）

○鎌倉時代 九州から元重が移住

南北朝～室町時代

- ・五家伝 相州（神奈川県） 備前伝（岡山県）
山城伝（京都府） 大和伝（奈良県）
美濃伝（岐阜県）
- ・兼元、兼定、兼房
関を有名にしたのは2代兼元
兼元の刀 武田信玄、豊臣秀吉、黒田長政
- ・志津三郎兼氏
正宗十哲の1人 本国は大和
美濃（海津郡南濃町）の志津村に来住し、美濃伝
を学んだ後、相模に移り正宗の弟子となる。
大和在住→大和志津
- ・兼定 会津兼定 4代にあたる兼定が芦名家に招か
れて会津の地に移り、会津のお抱えとなる。新撰組
副長の土方歳三が使ったとされる。

○国宝刀 昭和25年8月29日施行

文化財保護法

国宝の総数 104 件

日本の国宝総数 1082 件

- ・天下五剣

☆国宝 三日月宗近太刀（東京国立博物館）

足利将軍→豊臣秀吉→徳川秀忠に贈り徳川家の所蔵

☆国宝 童子切安綱太刀（東京国立博物館）

足利将軍→豊臣秀吉→越前松平家（高田藩）→津山
藩につがれる

☆国宝 大典太光世（前田育徳会）

足利将軍→豊臣秀吉→前田家の家宝

☆御物 鬼丸国綱（宮内庁）

北条、足利家→織田信長→豊臣秀吉

その後明治天皇の元に皇室の御物となる。

☆重要文化財 数珠丸 恒次（兵庫県 本興寺）

日蓮上人が所持 久遠寺に保管していたが行方不明
となり、大正9年発見。本興寺に寄進される。

○刀鍛冶になるためには

所定の修業を経た後、文化庁主催の作刀実地研修会

を修了した者に与えられる国家資格です。

刀鍛冶 修業5年（無給）

研修会 8日間で脇差しを打ち上げる

5名の審査員で見る

刀職者で刀鍛冶だけが許可が必要

全国で約250名

岐阜県 16名（関伝保存会 12名）

岐阜県その他、岡山、熊本、福岡などが多い。刀で生
計を立てている者は50～60名で、後は副業をしてい
る。

年間製作本数が決められている 年間24振

（刀）製作日数を15日以上で行う

（短）製作日数を10日以上で行う

半年前に作刀申請をする。

製作の書類 美術刀剣類製作承認申請書

県の教育委員会に提出、完了すると登録審査を受
け、登録書もらう。登録の書類は文化庁、警察に
もいきます。

○登録制度

- ・平成28年度までの日本刀の数

刀 265万本

鉄砲 12500丁

- ・明治初期 推定 500万振

- ・戦中の滅失、戦後の流出（推定100万振）

登録数の県別は1番多いのが東京都、2番目 大阪府、
3番目 兵庫県で7番目が岐阜県。新作刀は1番多い
のが岡山県で2番目が岐阜県です。毎年1万本以上
が登録交付されている。

○関の刀匠 八板金兵衛（1502～1570年）

戦国時代の刀鍛冶

鉄砲を日本で初めて作った関の刀匠

1543年（天文12年）種子島の門倉岬に漂着したポル
トガル人が鉄砲（火縄銃）を所持していました。島
主だった種子島時堯（16歳）は2千両（今の2億円）
で2挺を購入。八板金兵衛清定らに製作を命じる。
ネジのイメージが無く苦心する。自分の娘をポルト
ガル人に嫁がせて製法を学ぶ。西之表市には、金兵
衛の銅像、住居跡の標柱がある。

ポルトガル人から購入した1挺を島津義久に贈る。

島津義久→将軍足利義明に献上→江州国 国友村の

刀鍛冶に見せ、同じ物を作るように命じる。1544年
(天文13年)国友鍛冶は6ヵ月で2挺を完成させる。
1549年(天文18年)織田信長は国友に500挺注文。
長篠の戦では鉄砲3500挺が使用されたといわれる。
その他 紀州、根来寺、宗州、堺などが産地。

***出席委員会**

会員数31名、本日の出席15名です。

***ニコボックス委員会**

・会長・副会長・幹事

久しぶりの例会場使用となります。本日の卓話 刀
匠会 会長 尾川兼國様よろしくお願ひします。

・石原妙生君

尾川様、本日の卓話よろしくお願ひします。

・小澤重忠君

刀匠 尾川兼國様のご来場を歓迎して。

15名のご投函ありがとうございました。

***幹事報告**

・IM報告書配布のご案内

・例会終了後、理事・役員会開催のご案内

<次例会の案内>

第1928回 2018年2月1日(木)

会員卓話 石原妙生会員

テーマ 「我クラブの国際奉仕」

担 当 国際奉仕委員会